

探究学習の推進

東京都の教育施策を紹介する本コーナーの第3回は、探究学習の推進がテーマだ。新学習指導要領では「理数探究」や「総合的な探究の時間」などが設けられ、探究学習が一層重視されている。そこで、東京都教育委員会では、探究学習の知見やノウハウを蓄積するとともに、それらを広く周知するための事業を展開している。

教育委員会の施策

探究学習の推進校を指定し、そこで得られた知見やノウハウを他の都立高校に普及させる

推進校が探究学習の教育課程や教育内容を開発

東京都教育委員会（以下、都教委）は、2017年度、探究的な学習等先導する推進校として、東京都立三田高校、同南多摩中等教育学校、同大泉高校・附属中学校を「知的探究イノベーター推進校」（事業期間4年間。図1）に指定した。指導部高等学校教育指導課の佐藤聖一課長は、

同事業のねらいを次のように説明する。

「本事業は、探究的な学習等を通じて、思考力・判断力・表現力とともに、仮説、分析、検証、推論等の物事の本質を見極める知的探究力や、イノベーションを起こす創造力などを育成することを目指しています。それらの資質・能力を高校段階から育成することで、より高い目的意識や課題意識を持った大学生や社会人となる。」

り、グローバル社会でリーダーとして活躍してくれることを期待しています」

推進校の3校は、前述の資質・能力を育成するための教育課程の開発や、学習内容及び方法の開発に取り組んでいる。都教委では、推進校の実践によって得られた研究成果を他の都立高校にも周知することで、各校が「総合的な探究の時間」等を展開する際のモデルとしてもらうことを想定している。周知の方法は、成果発表会の開催や報告書の配布等を予定している。



東京都教育庁指導部
主任指導主事
鈴木宏治 すずき こうじ
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事等、都立高等学校副校長を経て、現職。



東京都教育庁指導部
主任指導主事
市村裕子 いちむら ゆづこ
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事等、都立高等学校長を経て、現職。



東京都教育庁指導部
高等学校教育改革担当課長
小林正人 こばやし まさとし
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事、指導部主任指導主事等を経て、現職。



東京都教育庁指導部
高等学校教育指導課長
佐藤聖一 さとう せいいち
東京都教育庁指導部主任指導主事、東京都教職員研修センター企画部企画課長等を経て、現職。

グラントデザインを 作成した上で本格実施

事業初年度は準備期間に充てられた。各推進校は、他県の先進校の視察などを行い、探究学習に関する情報を収集・分析。それらを踏まえて、校内で議論を重ね、自校が育成を目指す生徒像や、その生徒像を実現するための各教育活動の関連性を示したグラントデザインを作成した。探

究的な学びと教科の学びを融合させた全体計画を立てた上で、18年度から実践に移している。市村裕子主任指導主事は、これまでの成果について次のように話す。

「各校での実践は1年目ですが、既に様々な成果が出ています。例えば、3校とも大学院生や大学生をTA（ティーチングアシスタント）として招き、生徒が探究学習に取り組む際に助言してもらっていますが、TA

とのやり取りは、生徒が課題の本質に気づき、考えを深めるために有効であることが分かりました。また、活動記録を書かせることについて、最初は箇条書きのメモしか取れなかった生徒が、次第に研究テーマを構造化して図に示せるようになっていった成果も出ています。今後は、TAやノートをより効果的に活用するための更なる手法の構築や成果検証を期待しています」

生徒所有のICTを活用した 探究学習の充実を研究

18年度からは、「BYOD（*1）研究指定校」（事業指定2年間）も展開している。これは、普通教室にWi-Fi環境を整備し、生徒が所有するスマートフォンなどのICT機器

力の定着を目的としています。『知的探究イノベーター推進校』の3校も、探究学習にICTを活用する方法を研究するため、BYOD研究指定校としました。さらに、7校の共通目標として、教師の負担軽減を掲げています」

各指定校でWi-Fi環境の整備が完了したのは18年度の夏季休業中で、実際に活用が始まったのは9月からだったが、スマートフォンはパソコンに比べて起動にかかる時間が短い

図1 「知的探究イノベーター推進校」概要

(1) 目的 探究的な学習等を行い、生徒一人一人が主体的・協動的に学ぶ力や、思考力・判断力・表現力を一層高いレベルで身に付けさせるとともに、物事の本質を見極めようとする力や、よりよい社会を形成するなどの資質・能力を身に付けさせる。

・確かな基礎学力
・高度な語学能力



・思考力・判断力・表現力
・問題発見能力・課題設定能力・問題解決能力
・創造力・コミュニケーション能力
・自らの興味・関心と諸課題を結び付けて主体的・協動的に学ぶ力

(2) 内容

○答えのない現実社会の諸問題に対して、
課題を発見して、追究し、解決する学習

・学習プロセスの中にアクティブ・ラーニングを取り入れた探究的な学習の推進

○多様な学習機会の設定

・大学や研究機関の研究室訪問
・海外フィールドワーク等

○教育課程の弾力的な運用

・土曜日や長期休業日を活用

*東京都教育庁提供資料を基に編集部で作成。

YODによる探究学習の充実や学力向上の実現を目指し、2校は基礎学

「指定校の7校のうち、5校はBYODによる探究学習の充実や学力向上の実現を目指し、2校は基礎学

「ICT機器は、探究学習の推進に欠かせないツールです。探究学習にも様々な過程がありますから、学校のパソコンと生徒所有のスマートフォンが使いやすいかといったように、目的や用途に応じたICT機器の活用方法を確立することで、生徒が学びをより深められる環境づくりをしていきたいと考えています」

*1 Bring Your Own Device の略で、私的デバイスの活用を指す。

東京都立南多摩中等教育学校

これまでの教育活動の振り返りを
基に体系化を図り、生徒の発達段階
に応じた効果的な探究学習に深化

自校の取り組みを客観視した
上でブランドデザインを作成

東京都立南多摩中等教育学校は、2010年度の開校以来、探究学習を行う「フィールドワーク活動」を教育課程に組み込み、教科指導でも探究型・発表型の授業を重視してきた。

「フィールドワーク活動」は、前期課程（中学1～3年次）ではグループ単位で行う。1・2年次では、地域や身の回りにあるものをテーマにし、情報を収集・整理しながら掘り下げて考え、3年次では、生徒自身がよく科学的な研究テーマを設定し、仮説を検証する形で探究していく。そして、4・5年次（高校1・2年次）では、「ライフワークプロジェクト」として、生徒が個々にテーマを設定し、4000字程度の論文を書く（図2）。永森比人美校長は、探究学習の成果をこう語る。

「5年間の探究学習を通じて、生徒

の中で学問に対する興味・関心や課題意識が高まり、キャリア意識が醸成されていきます。卒業生の8割以上が、より深い研究に取り組める環境を求めて、研究開発型の大学（*2）に進学しています」

そうした中、17年度、「知的探究イノベーター推進校」に指定された。探究学習を推進する土台は既にできていたため、指定1年目は、これまでの教育活動を改めて振り返り、体系化する機会にあてたと、田母神武浩副校長は語る。

「プロジェクトチームを結成し、メンバーがSSH研究発表会や先進校を視察し、探究学習の最新情報を収集しました。そうして自校の取り組みを客観視してからブランドデザインの作成に着手したのは、教育活動の特色化を図る上で有効でした」

同校は、育成を目指す生徒像を「予測可能な社会にあっても新たな価値を創造し、主体性を持って活躍し

東京都立南多摩中等教育学校

- ◎教育理念に「人間力の南多摩・心・知・体の調和」を掲げる。東京都教育委員会「B YOD研究指定校」「知的探究イノベーター推進校」「理数リーディング校」「英語教育推進校」の指定校。
- ◎設立 2010（平成22）年
- ◎形態 全日制/普通科/共学
- ◎生徒数 1学年約160人
- ◎2018年度入試合格実績（現役のみ）
国立大は、東京外国語大、東京工業大、東京大、横浜国立大、首都大学東京などに49人が合格。私立大は、慶應義塾大、明治大、早稲田大などに延べ400人が合格。
- ◎URL <http://www.minamitamachuto-e.netro.tokyo.jp/site/zen/>

続けるグローバルリーダー」とし、その実現に向けた教育活動のあり方について議論を重ねた。そして、「探究力」を育む「フィールドワーク活動」を中心に、「学力」を育む英語教育や理数教育、「突破力」を育むキャリア教育などを有機的に結びつけたブランドデザインを完成させた。

探究学習で育成を目指す
資質・能力を学年単位で整理

「フィールドワーク活動」も改めて体系化した。フィールドワーク推進室主任の青嶋康文先生はこう語る。

「それまでは学年を問わず、生徒には『フィールドワーク活動では、自



東京都立南多摩中等教育学校
校長
永森比人美 ながもり・ひとみ
教職歴33年。同校に赴任して3年目。



東京都立南多摩中等教育学校
副校長
田母神武浩 たまがみ・たけひろ
教職歴33年。同校に赴任して3年目。



東京都立南多摩中等教育学校
副校長
岡田貴夫 おかだ・きみお
教職歴35年。同校に赴任して1年目。



東京都立南多摩中等教育学校
副校長
徳武英人 とくたけ・ひでと
教職歴33年。同校に赴任して7年目。主幹教諭。進路指導主任。



東京都立南多摩中等教育学校
副校長
青嶋康文 あおしま・やすかみ
教職歴38年。同校に赴任して9年目。主幹教諭。フィールドワーク推進室主任。



東京都立南多摩中等教育学校
副校長
藤田信幸 ふじた・のぶゆき
教職歴12年。同校に赴任して3年目。主任教諭。フィールドワーク推進室主任。

分が疑問に感じたことについて、仮説を立てて取り組むことが大切だ』と話してきました。しかし、1・2年生に求められる仮説検証力と、4・5年生に期待する仮説検証力とは、異

* 2 文部科学省の科学研究費配分の上位機関、スーパーグローバル大学、外部評価機関の評価の高い大学、世界の大学ランキングへのランクイン大学のいずれか。

